

東近江市総合計画審議会 会議録

第5回 東近江市総合計画審議会・要約		
日時	平成23年9月22日(木) 14:00~16:00	
場所	東近江市役所 3階 3A会議室	
出席者	審議会	稲川会長 今堀副会長 堤委員 小倉委員 山村委員 武藤委員 太田委員 野々村委員 森田委員 北川(憲)委員 北川(陽)委員
	市職員	村井企画部次長 企画課 吉澤 本持 古川
欠席委員	井上委員 小椋委員 大林委員 川村委員	

会議録の確定	
署名委員	審議会会長

1. 会長あいさつ

[会長]

本日は前回(第4回審議会)の議論の中で出てきた意見をもとに訂正していただいた序論・基本構想案について、修正箇所を確認の上、改めて議論をしていただきます。

前回の意見を要約しますと、「市民と行政がともにまちづくりを進めていく上で、人材発掘・育成(特に、定年退職者世代)が重要であること。」「発達障害など、特定の人が抜け落ちない相談支援体制確立の必要性があること。」になります。

2. 総合計画 序論・基本構想(案)について

[事務局]

資料1~2について説明

○人材発掘・育成についての追記箇所

○相談支援体制についての追記箇所

[会長]

ありがとうございます。前回(第4回審議会)の問題提起を、これをどのような形で序論・基本構想に反映させるのか、この訂正案(事前に事務局と協議した)をもとに、市民が持っているノウハウ、また取組みと併せて議論を進めたいと思います。

只今の説明について意見はありますか。

【事務局】

(委員からの参考資料(地域人材発掘・育成関連)を配布する。)

【委員】

専門部会に参加して、共通の課題があることがわかりました。それが、人材発掘・育成と相談支援体制です。

<人材発掘・育成(配布資料説明)>

○特に、地域人材として退職サラリーマンがメインターゲットになる。

<相談支援(配布資料説明)>

○東近江市の高齢者と障害者を併せた、総合相談窓口の取り組みについては、他市から高い評価を得ている。

○彦根市の担当者が「東近江市の取組みを参考にしたい」と述べた。なお、彦根市は高齢者・障害者に、発達支援を含めた形で、相談窓口を設置したいとのことである。

【会長】

ありがとうございます。退職サラリーマンが閉じこもりになるか、地域人材になるかで、大きくかわってくるということですね。このような問題意識を持って進めることが大切だと思います。

地域づくりのための人材発掘・育成ではありますが、福祉の分野でも大きな意味を持つこととなります。

【委員】

(自身の経験で)仕事を辞めて健康づくりなど色々とやりかけましたが、人とのかかわることのないさみしさ、また組織のないさみしさを感じました。

(地域デビュー)気持ちのある方は、40歳代から準備をされています。また、60歳から65歳まで地域の役員をされ、その後65歳になって参加される場合もあります。

「定年退職者」という表現ですが、他の表現がないでしょうか。

【会長】

地域の人材を発掘してどのように地域デビューしてもらうかが、重要です。

【委員】

地域のことを良く知っておられる定年退職者は地域に出で来られますが、遠くに勤務をされていた人は、地域のことをよく知らない方もおられ、出て来られない場合もあります。

<事例>

○定年退職者の5%は地域デビューするが95%はできないという数値がある。

○東京近辺は人口も多く(ボリュームゾーンが広い)一定の人材は確保可能だが、東近江市は人口が少なく(ボリュームゾーンが狭い)そこで、このシステム(参考資料)を取り入れることで、5%を引き上げる努力が必要である。

【委員】

我々のようなタイプの人間（青年経済人）は、地域に溶け込んで活動してきました。サラリーマンで遠くに離れていた人は、行政とともに活動ということはなかったと思います。そこで、定年退職者の地域への引っ張り込みをやっていきます。「青年経済人」にこの「引っ張り込み役」を位置づけるべきではないでしょうか。

【会長】

どのような、てこ入れが必要でしょうか。

【委員】

人材育成については、苦しいと言いながらも昔の人は一生懸命されていました。回りまわって、自分に帰ってくるという意識が薄くなっていると思います。今の若い人が希望を持っていない状況を変えていきたいと考えます。

【委員】

（何につけても）昔は選択肢がありませんでしたが、今は選択肢が多すぎてパイオニアがないのが要因です。物語をつくれる人（ベンチャー）に人は吸い寄せられるものです。

【委員】

思い（ストーリー）が描けるリーダーを育成すること、そして、各々の役割を担っていただくことが大切だと思います。また、地域にリーダーはいても、繋がりがいいことで活かされないことが問題です。

【委員】

どう役割分担していくかが求められていると思います。

【委員】

この前のシンポジウムは良かったが、もっと長い時間をかけてディスカッションし、深めていきたいと感じました。

ストーリーを描ける人材が少ないと思います。

【委員】

信用できる人間関係、顔が見える関係が大切です。商工会議所でもそのような場を作っておられますね。

【委員】

来月もやる予定です。色々な垣根を超えないといけないと思います。

【委員】

福祉（分野）の人はビジネスを嫌う人がいますが、経済人と福祉（分野）の人が出会う必要があると思います。

【委員】

リーダーには素質が必要だと思います。20歳で外へ出て、60歳で帰ってきた人でも（地域で）役に選ばれた人がいます。祭りや運動会をやって、溶け込まない人はだめです。

性格もあるので、誰彼なしにリーダーにする訳にはいきません。いい人をどのように活かすかが問題だと思います。

【委員】

私も（年齢的に定年退職者の）対象者です。社会コストになるか、地域の人材になるかが大きな問題です。

東近江市の人口の半分は調整区域で半分は市街化区域に住んでいます。調整区域（集落）に住んでいると色々な役が回って来ますが、市街化区域（都市部）はそれが少なく問題になると思います。

【委員】

相談について、東近江圏域と大津圏域を比べると、大津圏域(市街地)は20歳代が多く、東近江圏域（農村部）は50歳を超えてからが多い状況です。

例としては、30歳から家を一步も出ていないで78歳になって初めて「働かせたい」という相談（ケース）がありました。高齢になり相談に来られるまでに、地域とのかかわりがあればと思います。

＜委員の取組を紹介する＞

○永源寺の木材を使用して、障がいのある人たちが木製ハガキ（エコハガキ）を制作し販売する取組みである。

○自分たちが作ったハガキを見に行くツアーなどを企画している。

○この取組みのように、何か役割を持つ、またそのような機会をつくっていく必要がある。

○社会コストになるか、人材資源になるか、障がいのある人にとっても大きな意味がある。

【会長】

相談のケースは、切実な話だと思います。また、委員のエコハガキはストーリーのある話で、このような視点が大切だと思います。このような場を作っていくべきで、それが、育っていく仕組みづくりが大切です。

【委員】

地域デビューされることは、回りまわって自分のところへ帰ってくることであります。何のために、地域デビューをされるのか整理する必要があると思います。

また、介護士が足りない状況があり、それを1つの事業所が抱えることは無理があります。なお、介護士を地域にどのように回していくのが問題となります。

【委員】

自分が誰かのためになっていることが大切で、それを感じなければやっていけないと思います。それぞれの役割を見つけることが大切です。可能性を持っている人がたくさんおられるので、役に立っていることを繰り返し伝えていくことが必要だと思います。

また、人と人とのコミュニケーションを昔のように取り戻すことが大切だと思います。

【委員】

県職員時代に知事から、職員は地域に顔を出せと言われ続けてきました。農村集落の人はそれらの機会があるが、農村集落部以外では少ないと思います。その人たちを、引っ張り出すうまい工夫が必要だと思います。

【会長】

（これまでの議論は）大きな鍵になる話だと思います。人材の件では別紙（委員提供資料）に示されていますが、他にはありませんか。

【委員】

地域デビューする目的は、社会コストになるか、地域資源になるかということなのか。

【委員】

そういうことです。新興団地（昭和50年代）の定年退職者に、地域とのかかわりがない人が多いですが、農村地域ではいやおうなしに地域デビューすることになります。

東京では孤独死が多く、その中でも男性が多く問題だと聞いています。

地域デビューにはボランティアで誘ってもだめです。近江八幡市では、友達づくり、仲間づくりで700人の人がデビューされて、とじこもり防止・介護予防に繋がっている全国的にも有名な取り組みがあります。

ある大学の先生の話では、農山村の人（定年退職者世代）は繋がりがりがあり明るい、都市部の人（定年退職者世代）は繋がりが薄く暗いと話されていたことを聞いたことがあります。

【委員】

今回の大震災でも、そのような例があることをテレビで見ました。

【会長】

もうひとつの（訂正テーマ）発達障害の相談支援体制については如何がですか。

【委員】

「発達障害をはじめとする・・・」という書き出しがちょっとマニアックな感じがします。一般には発達障害ということを知ったことがない人が多いのではないのでしょうか。障がい者という表現ではどうでしょうか。

【会長】

相談支援で、包括的な表現でよいでしょうか。

【委員】

知らない人が多いのであれば、あえてこうした方がよいのではないでしょう。問題提起も大切だと思います。発達障害では先頭を切るほうがよいと思います。

【委員】

発達障害は、脳の構造の障害であって、勉強はできるがコミュニケーションができないなどの障害で、滋賀県では7人に1人の割合です。

【会長】

どのような支援につなげていくかについて、いかがですか。

【委員】

18歳までの支援体制はできているので、18歳以降の就労期の支援が必要です。

就学期の支援を行っているのは、東近江市だけです。

働いてお金をもらい、それを自分の生活の糧とする体験の取り組みが大切だと思います。

また、発達障害は福祉や教育分野から、はみでているのが現状です。

【会長】

市においても、すべての課が横断的に連携することが求められます。

発達障害以外も含めて、包括的な取り組みの提案はないですか。

【委員】

支援体制を組んでいく時に、体験するところが大切になります。それが、地域や企業です。

【委員】

発達障害者の地域デビューは、家族機能が強すぎる場合、遅らせてしまっているということもあると思います。

【会長】

発達障害の表現を考える必要がありますが、この問題にどのように向き合っていくか検討することも必要だと思います。

【事務局】

資料 1・3・4 について説明

「年齢別構成人口の推移の件」

「震災に伴う絆の件」

「市民の提言を取り入れていく文脈を盛り込む件」を、重点的に説明

意見書提出期限 平成 23 年 10 月 3 日（月）

提出方法 メール・ファックス

提出様式 資料 4

次回審議会日程、別途通知

3. 閉会